

アルプス花街道は、1998年長野冬季オリンピックが開催された白馬村への玄関口となる長野自動車道安曇野インター（旧豊科インター）から訪れる多くの皆さんを歓迎するとともに、オリンピックの成功を



マリーゴールドの植栽の様子

ふるさとの道ふれあい事業」アダプトシステム（県道の里親制度）の協定書に調印し、現在の沿線の歩道脇に植栽する形になりました。

平成16年に  
アルプス花  
街道実行委  
員会と長野  
県、旧豊科  
町が「信州

祈念し、安曇野インターから白馬方面に至る県道柏矢町田沢停車場線沿線の田畑にマリーゴールドなどの季節の花を植栽したことが始まりになります。オリンピック終了後も、安曇野を訪れる皆さんを歓迎する気持ちは変わらず、マリーゴールドの他に百日草やコスモス、ひまわりを植栽しました。

その後、

安曇野市

アルプス花街道

アルプス花街道実行委員会

実行委員長

等々力 秀和



さらに平成17年10月に安曇野市が誕生したのを機に、市内各地域にアルプス花街道の輪が広がりました。こうした長年の取り組みと内容が認められ、平成19年度には長野県知事表彰、平成20年度には「小さな親切」実行章、全国花いっぱい運動功労表彰、平成22年度には「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰、令和元年度には道路功労者表彰と数多くの表彰を受賞することができました。

現在は、67団体、約1,100人が、市内9ヶ所、約8,500mの距離にマリーゴールドを植栽しています。

また、新たに安曇野市シニアクラブ連合会が参加し、市内各地に色とりどりの花々が広がっています。これからも安曇野を訪れる皆さんを歓迎するとともに地域の環境美化に努めていきたいと思ひます。



安曇野インター北付近の活動





日本アルプスサラダ街道付近の活動(三郷サラダ花街道の会)



安曇野市シニアクラブ連合会の活動(小田多井にここ会)

藤沢市みどりいっぱい市民の会は、1977年10月、藤沢青年会議所10周年記念事業「緑の街づくり」という16ミリ映画を製作したのをきっかけに、緑の普及と青少年育成を目的に設立されました。



児童クラブに花苗を寄贈



緑綬褒章を受章

支援・ご協力を頂きながら、45年目の活動を迎えました。  
コロナ禍のため、近年の活動は、なかなか思うようにできておりませんが、本年度は、「花育」をテーマに活動しております。  
花という命を扱うことによって感謝の気持ちを育て、花に適した扱い方を学び、それを施すことで相手に適した行いをするという優しい気持ちを育てます。  
更に、花を育てるために工夫することは探究心や創造力を育み、大勢で活動する場合は人とのつながりを

## 藤沢市 藤沢市みどりいっぱい市民の会



作り、広げ、小さい頃から花に親しむことで、子供だけでなく、家族、地域の人々への波及効果が期待できるのです。

その活動目標を基軸に、緑の普及活動では、東京五輪のセーリング会場である江の島を有する藤沢市。江の島に渡る弁天橋の袂に、藤沢市の木である「クロマツ」を記念植樹し



藤沢駅前サンパール広場で花植活動





江の島弁天橋に植樹

ました。藤沢駅前のサンパール広場には、お花の植樹を行い、花育青少年活動では、藤沢市内の39児童クラブに花の苗を無償提供しました。

更に、東日本大震災の復興支援の一環で、岩手県大船渡市に、植樹を行い、両市交流の懸け橋の一役を担うなど、時には市外にも枠を広げて活動を行っております。

コロナで暗い気持ちになりがちな昨今だからこそ、花や緑を通じて、癒しと笑顔が溢れるまち藤沢の実現を目指し、今後も活動してまいります。



大船渡市で植樹



春のフラワーキャンペーン

## 名護市 花いっぱい運動と全国大会開催へ向けての取り組み

令和2年に市政50周年を迎えた名護市は、沖縄県本島北部に位置し、県内三番目の面積を有しています。東側は太平洋、西側は東シナ海に面し、緑深い山々や清流を有する山紫水明の地で自然環境に恵まれています。亜熱帯性の気候区分に属し、冬季も比較的温暖で年間を通じて寒暖

の差が少ない気候を活かし、ラン、キクなどの花卉のほか果樹・野菜栽培も盛んに行われています。

本市は、道路・公園・民家等あらゆる場所において、四季を通して花が見られる街「フラワーシティーなご」を推進しています。平成10年には、本市における花いっぱい運動の要となる市民団体「花の里づくりの会」が発足され、市民・行政・企業が連携し緑化啓発に取り組んできました。

2019年に実施された「市政50周年記念事業 名護テッポウユリ普及促進プロジェクト」では、鳥獣被害や環境の変化により、年々減少の一途をたどる本市のシンボル、テッポウユリを復活させるため、市内55区の地域、保育園から大学までの教育施設、公共施設、自治会等にユリの球根6万4千球を配布しました。

市内大型花壇への植え付け作業にはボランティア約200名が参加し、市民が一人ひとりが市花の普及促進に努めました。本プロジェクトにより植栽され、各地域にて大切に育て





市民により植え付けを行った名護市のシンボル、テッポウユリ

られたテッポウユリが今年も開花時期を迎え、道行く人の目を楽しませています。また、「花の里づくりの会」は、名護市より花苗の配布、市営花壇、土づくりメインセンターの維持管理を受託し、市民ボランティアの協力のもと年間25万本の苗を生産しています。毎年春と秋にはフラワーキャンペーンを実施し、地域、職場の花壇等に花苗を配布しています。配布された花苗は自治会、学校、企業、市民団体により、植栽、維持管理され、市民が主体となった花いっぱい活動の一助となっています。今春に行われたフラワーキャン

以上が参加し、緑道約1・4 kmの除草と市街地及び式典会場となる名護市民会館周辺の清掃活動を行いました。除草、清掃活動を行うことで、環境美化を図り、花と共につくる景観づくりにも力を入れています。

今後も関係団体と連携し、持続的な花いっぱい運動を実施することで、地域の活性化につなげていくとともに、本大会を契機により一層市民主体の緑化活動の充実を図り、「フラワーシティーなご」のさらなる

ペーンではサルビア、トレニアをはじめとする計6種の花苗が市内小中学校や地域の花壇に植栽されました。こうした取り組みの他にも、各種講習会の開催や学校への育苗の支援、四季折々のイベントの歓迎飾花を積極的に行い、県内外へ向け「フラワーシティーなご」の啓発に努めています。

令和3年度に開催する「第60回全日本花いっぱい名護大会」へ向けたキックオフイベントとして、4月27日・28日の二日間にわたり、「名護クリーンアップ活動」が行われました。市職員100名



清掃活動の様子



除草作業の様子

展開を目指します。

令和4年3月5日(土)の「第60回全日本花いっぱい名護大会」開催に向けて、オープニングガーデンなど各地域と連携した企画を計画しております。この時季、温暖な沖縄だからこそ見られる沢山の花たちと共に皆様のお越しを心よりお待ちしております。



地域の花壇の様子

## 第50号

発行日 令和3年7月  
発行 全日本花いっぱい連盟事務局  
長野県松本市中央1-18-11

Mウイング2F

TEL 0263-3213042  
FAX 0263-3216511